

令和3事業年度病床転換助成事業特別会計

事務費勘定

財 産 目 録

貸 借 対 照 表

損 益 計 算 書

キャッシュ・フロー計算書

令和3事業年度病床転換助成事業特別会計
事務費勘定財産目録

(令和4年3月31日現在)

資 産 の 部			
区 分	内 訳		金 額
	摘 要	金 額	
		千円	千円
流 動 資 産			36,652
現金及び預金			36,120
	普通預金	36,120	
未収入金			532
	消費税等還付金	532	
固 定 資 産			861
有形固定資産			329
工具器具備品			741
減価償却累計額			△ 411
投資その他の資産			531
前払年金費用			531
	資 産 合 計		37,514

負債の部			
区分	内 訳		金額
	摘 要	金額	
		千円	千円
流動負債			2,104
未払金			1,360
未払費用			89
預り金			44
賞与引当金			611
固定負債			12,295
退職給付引当金			12,295
	負債合計		14,400
	差引正味財産		23,114

令和3事業年度病床転換助成事業特別会計 事務費勘定貸借対照表

(令和4年3月31日現在)

資 産 の 部			負 債 ・ 資 本 の 部		
区 分	注記 番号	金 額	区 分	注記 番号	金 額
千円			千円		
(資産の部)			(負債の部)		
I 流動資産			I 流動負債		
1 現金及び預金		36,120	1 未払金		1,360
2 未収入金		532	2 未払費用		89
流動資産合計		36,652	3 預り金		44
			4 賞与引当金		611
II 固定資産			流動負債合計		
1 有形固定資産					2,104
工具器具備品	741		II 固定負債		
減価償却累計額	△ 411	329	退職給付引当金		12,295
有形固定資産合計		329	固定負債合計		12,295
2 投資その他の資産			負債合計		
前払年金費用		531			14,400
投資その他の資産合計		531	(資本の部)		
固定資産合計		861	利益剰余金		
			1 別途積立金		22,260
			2 当期末処分利益		853
			利益剰余金合計		23,114
			資本合計		
					23,114
資産合計		37,514	負債・資本合計		37,514

令和3事業年度病床転換助成事業特別会計
事務費勘定損益計算書

(自 令和3年4月1日)
(至 令和4年3月31日)

区 分	注記 番号	金 額	金 額
		千円	千円
〔経常損益の部〕			
(業 務 損 益 の 部)			
I 業 務 収 益			
事業費勘定からの受入		22,552	22,552
II 業 務 費 用			
1 給 与 手 当		5,522	
2 賞 与		1,306	
3 賞与引当金繰入額		611	
4 退職給付費用		1,213	
5 法定福利費		1,136	
6 委託費		8,819	
7 減価償却費		133	
8 その他の業務費用	※1	2,957	21,699
業 務 利 益			853
(業 務 外 損 益 の 部)			
業 務 外 収 益			
受 取 利 息		0	0
経 常 利 益			853
当 期 純 利 益			853
当 期 未 処 分 利 益			853

令和3事業年度病床転換助成事業特別会計
事務費勘定キャッシュ・フロー計算書

(自 令和3年4月1日)
(至 令和4年3月31日)

区 分	注記 番号	金 額
I 業務活動によるキャッシュ・フロー		千円
事業費勘定からの受入収入		22,552
人件費の支出		△ 8,655
その他の業務支出		△ 11,715
小 計		2,181
利息の受取額		0
業務活動によるキャッシュ・フロー		2,182
II 投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資活動によるキャッシュ・フロー		—
III 財務活動によるキャッシュ・フロー		
財務活動によるキャッシュ・フロー		—
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額		—
V 現金及び現金同等物の増減額		2,182
VI 現金及び現金同等物の期首残高		33,938
VII 現金及び現金同等物の期末残高	※1	36,120

令和3事業年度病床転換助成事業特別会計 事務費勘定利益処分計算書

(令和4年6月27日)

区 分	金 額
I 当期未処分利益	853,657
II 利益処分額	
任意積立金	
別途積立金	853,657
III 次期繰越利益	0

重要な会計方針

期 別	当会計期間
項 目	（ 自 令和3年4月 1日 ） （ 至 令和4年3月31日 ）
1. 固定資産の減価償却の方法 有形固定資産	<p>定額法によっております。</p> <p>なお、主な耐用年数は、以下のとおりであります。</p> <p>工具器具備品 5年</p>
2. 引当金の計上基準	
(1) 賞与引当金	<p>職員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき当期に見合う分を計上しております。</p>
(2) 退職給付引当金	<p>職員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。</p> <p>ア 退職給付見込額の期間帰属方法</p> <p>退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当期末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。</p> <p>イ 過去勤務費用及び数理計算上の差異の費用処理方法</p> <p>過去勤務費用については、職員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（11年）による定額法により按分した額を、発生時から費用処理しております。</p> <p>数理計算上の差異については、職員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（11年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌期から費用処理しております。</p>
3. キャッシュ・フロー計算書 における資金の範囲	<p>手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりスクしか負わない短期的な投資からなっております。</p>
4. その他財務諸表作成のための重要な事項 消費税等の会計処理	<p>消費税等の会計処理は税抜方式によっております。</p>

表示方法の変更

(損益計算書関係)

当会計期間 (自 令和3年4月 1日) (至 令和4年3月31日)
※1 前事業年度において独立掲記していた「業務費用」の「使用料及び賃借料」(前事業年度1,906千円、当事業年度768千円)、「保守料」(前事業年度1,979千円、当事業年度160千円)及び「租税公課」(前事業年度1,598千円、当事業年度606千円)は、金額的重要性が乏しくなったため、当事業年度は「その他の業務費用」に含めて表示しております。

会計上の見積りの変更

(損益計算書関係)

当会計期間 (自 令和3年4月 1日) (至 令和4年3月31日)
退職給付における過去勤務費用及び数理計算上の差異の償却年数については、従来、平均残存勤務期間以内の一定の年数(12年)で償却しておりましたが、平均残存勤務期間が12年を下まわったため、償却年数を11年に変更しております。この変更により業務費用が169千円増加し、業務利益、経常利益及び当期純利益がそれぞれ169千円減少しております。

注記事項

(キャッシュ・フロー計算書関係)

当会計期間末 (令和4年3月31日現在)
※1 現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲載されている科目の金額との関係
現金及び預金 千円
<u>36,120</u>
現金及び現金同等物
36,120

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当支払基金は、職員の退職給付に充てるため、積立型、非積立型の確定給付型制度を採用しております。

企業年金基金制度（積立型制度であります。）では、給与と加入期間に基づいた年金又は一時金を支給します。

退職一時金制度（非積立型制度であります。）では、退職給付として、給与と勤務期間に基づいた一時金を支給します。

2. 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

期首における退職給付債務	△ 21,108	千円
勤務費用	△ 574	
利息費用	△ 105	
数理計算上の差異の当期発生額	△ 640	
退職給付の支払額	244	
期末における退職給付債務	△ 22,185	

3. 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

期首における年金資産	7,655	千円
期待運用収益	214	
事業主からの拠出額	121	
数理計算上の差異の当期発生額	625	
退職給付の支払額	△ 244	
期末における年金資産	8,372	

4. 退職給付債務及び年金資産と貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び資産の調整表

イ. 積立型制度の退職給付債務	△ 8,689	千円
ロ. 年金資産	8,372	
ハ. 非積立型制度の退職給付債務	△ 13,496	
ニ. 未積立退職給付債務（イ＋ロ＋ハ）	△ 13,813	
ホ. 未認識過去勤務費用	△ 858	
ヘ. 未認識数理計算上の差異	2,908	
ト. 貸借対照表計上純額（ニ＋ホ＋ヘ）	△ 11,763	
チ. 前払年金費用	531	
リ. 退職給付引当金（トーチ）	△ 12,295	

5. 退職給付に関連する損益

勤務費用	521	千円
利息費用	105	
期待運用収益	△ 214	
過去勤務費用の当期の費用処理額	△ 171	
数理計算上の差異の当期の費用処理額	972	
退職給付費用	1,213	

(注) 企業年金基金に対する職員拠出額を控除しております。

6. 年金資産の主な内訳

債 券	53.6%
株 式	33.8%
その他	12.6%
合 計	100.0%

7. 長期期待運用収益率の設定方法に関する記載

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

8. 数理計算上の計算基礎に関する事項

期末における主要な数理計算上の計算基礎

割引率	0.5%
長期期待運用収益率	2.8%